

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成28年5月31日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科 消化管外科学

職 名・学 年 博士課程4年

氏 名 坂 口 正 純

助成の種類	平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成	
研究集会名	2016第9回世界癌大会 Bit's 9th Annual World Cancer Congress-2016	
発表題目	Dysregulation of miR-137/DCLK1 axis plays an important role in colon cancer stem cells	
開催場所	中華人民共和国 上海	
渡航期間	平成28年5月14日 ～ 平成28年5月16日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	150,000円
	使用した助成金額	150,000円
	返納すべき助成金額	円
	助成金の使途内訳	参加登録代 150,000円 ----- ----- ----- ----- -----
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 研究会の開催時期が、助成採用の結果発表日と近かったにも関わらず、採用していただき、また迅速に処理していただき、ありがとうございました。	

成果の概要／坂口 正純

私は平成 28 年 5 月 14 日-16 日に上海で開催された Bit Annual World Cancer Congress に参加しました。この研究会は今年で 9 回目で、世界各国から癌の研究者が参加していました。参加者は 400 人とそれほど大きな会ではありませんが、逆に演者とコミュニケーションが取りやすく、議論をしやすい環境です。ほぼ全ての発表が口演で、発表時間は 20-25 分と長い時間を与えてもらえ、研究について理解してもらうことができ、その上で議論ができるので、自然と深い議論ができます。演題は基礎研究に限らず、基礎研究から臨床研究まで幅広い分野の発表がありました。

初日はキーノートフォーラムがあり、そこでは、新しい情報を得ることもできました。フランスを中心に Simplified Interventional Mapping System (SIMS) という、テーラーメイド治療の先駆けとなる治療の臨床試験が行われていて、それについての発表が斬新で刺激的でした。二日目からは一般演題の発表で、私は大腸癌とマイクロ RNA の研究をしているので、それに関係した発表を中心に聴きました。その中でも、やはり免疫チェックポイントに関連した発表は多く、かつ他の参加者の関心も高く、活発な議論がなされていました。各国ともに皮膚癌、肺癌、膀胱癌、卵巣癌を中心に PD-1 抗体等の治療薬に関連した発表をしていました。様々な研究報告を聞き、この分野は急速に進歩していると感じました。

残念ながら大腸癌の発表は少なく、あまり得るものはありませんでした。

マイクロ RNA に関しては、臨床応用への研究発表が多く、いいアイデアをたくさんもらえました。マイクロ RNA をバイオマーカーや臨床診断へ応用する発表が多く、治療への応用が少なかったのは残念でした。

私も、マイクロ RNA のセッションで発表しました。私の研究内容は基礎研究なので、いかに臨床へ応用していくかという質問を受けました。発表時間が 20 分と十分あるため、研究内容についてのしっかり理解してもらえていたので、質疑応答が突っ込んだ議論になったので、非常にためになりました。その質疑応答の中で新たなアイデアも浮かび、今後の研究に生かすことができそうです。

また、個人的には長時間英語で発表し、また質疑応答する経験ができたのは良かったです。ウェルカムパーティでは、他国の研究者ともコミュニケーションが取れ、いい経験ができました。

最後に、このような有意義な研究会に参加するために、助成をしていただいた京都大学教育研究振興財団に厚く御礼を申し上げます。